

2019年度大阪3x3連盟大会報告書

掲題の件、下記のとおりご報告申し上げます。

●大会名	第5回3x3日本選手権大会中日本エリア大会
●日程	2020年1月19日(日)
●会場	大阪府立柴島高等学校体育館



1. 審判【トーナメントチーフ】伊藤亮介(京都府)、黒岡和哲(大阪府)※3x3トップリーグ担当(JBA派遣)
 (香川県)仲地祥吾(岐阜県)名越龍男 ※3x3トップリーグ担当
 (大阪府)茅野修司(社会人連)、黒川直樹(3x3連)、畑迫賢一(中体連)、
 (兵庫県)森 亮太(京都府)畑中慎一郎(奈良県)島谷幸之助、嶋田正善



2. 審判員の課題及び全体共有テーマ

(1)競技規則の周知、確認 (2)判定にかかる確認事項 (3)試合にかかる審判確認事項

※ RSBQ+アドバンテージ/ディアドバンテージへの対応、
 ノークリアードボール等の確認、DOGの処置等を全体共有。

3. スケジュール

10:30-11:30 PGC(3x3競技規則、判定に関する留意事項等)
 12:00-16:40 競技(3面展開)
 16:40-17:00 ポストゲームカンファレンス



4. 判定に関する懸案事項等

○審判の判定基準が統一されていない

- ・3x3の判定基準(プレイコーリングガイドライン)が理解・徹底されていない
- ・アドバンテージ/ディアドバンテージの適用が出来ていない
- ・Referee Defenseが出来ていないため、コンタクトの責任関係が判定できない
(特にドライブショットに対するDefense)
- ・イリーガルなコンタクトで明らかにバランスを崩しているがファウルコールされない
- ・バウンダリーライン付近で押し出す行為にファウルの判定がされない
- ・ポストアップでのOffの手の使い方でOffenseファウルが判定されない
- ・選手のインテンシティが高まっている状況を把握できず、粗暴な行為に判定ができない
(ショットプレイへのUF(C2)、ペイバックであることを理解できず、NFとしてコール)



○メカニクスの理解・実践がされていない

- ・トレイルでの2or1を見るための動きがほとんどない
- ・常に動きながら、のぞき込む姿勢のため、判定に繋がらない
- ・PrimaryとSecondaryが正しく理解できていない(2人ともボールを捕らえている)
(オフボールでのDefのGrab、Holdにほとんど笛は入っていない)

○審判がゲームをリードできていない

- ・AOS、DOGで審判が明確に判定を示さない(選手にアピールされても曖昧)
- ・選手からの質問に明確に対応できない(コミュニケーション不足)

○ゲームコントロール、クロックマネジメント

- ・テンポセツで判定基準を示せず、ゲームを決める場面で急に判定が入ってしまう
- ・EOGへの意識(ノックアウトの状態を知らない、ラストショットを意識できていない)
- ・審判のショットクロック、タイマー、得点、ファウル数への意識が低い
(今回はTOがしっかりと対応していただいたため、大きなトラブルとはならず)



5. ゲームコントロール向上及び強化に向けた今後の課題

- ・アドバンテージ/ディアドバンテージまで考慮した判定ができるようになること。
- ・一貫した判定ができるよう、審判間のスキルのばらつきをなくすこと。
- ・TOとの連携、得点・タイム管理・ファウル個数管理ができるようになること。